

V-20

建設工事に関わるイメージアップの実例と今後のあり方に関する考察

北海道開発局 札幌開発建設部 札幌道路事務所 ○正 員 小林 将
北海道開発局 札幌開発建設部 札幌道路事務所 川村 雅洋
北海道開発局 札幌開発建設部 札幌道路事務所 神山 繁
北海道開発局 札幌開発建設部 札幌道路事務所 小田嶋正之
北海道開発局 札幌開発建設部 札幌道路事務所 正 員 佐藤 昌志

1. はじめに

近年、建設技術は著しい発展を遂げているが、その反面で一般的な建設工事に対するイメージは、技術の進歩に比例して良くなっているとはいえない現状であると考えられる。

そこで、本論文では表題の通り、従来各種建設工事において実施されている『イメージアップ』に着目し、発注者、施工業者並びに一般の方を対象にアンケートを実施する事により、現在建設工事のイメージをアップするためにどのような措置が現場で講じられているか、またそれがどのように一般の方に捉えられているかを把握し、イメージアップの見直しを図り、今後のイメージアップのあり方を考察する。

2. 建設工事のイメージアップに関するアンケート調査

(1) 目的

現在開発局発注工事をはじめ、建設業全体のイメージアップは各種建設工事において実施されているところであるが、そもそもイメージという言葉の意味が「像・おもかげ」と曖昧であり、一言でイメージをアップするといっても、ますます曖昧な意味合いとなり、人によって様々な見方が生じると思われる。

一般の方の建設工事に対する捉え方と我々建設業に携わる者（監督員・建設業者）との捉え方にも幾分のギャップがあると考えられ、それを埋めるべく、本アンケート調査により、両者の捉え方の相違を明確にし、より効果的なイメージアップを図ることを目的とした。

(2) 調査方法

一般の方・監督員・建設業者を対象に、建設工事に対してどのようなイメージを持っているのかをその理由も含めて調査した。次に建設業者を対象に、現在各種建設工事においてどのようなイメージアップが実施されているのか、また、それは誰を対象に、実施しているのかを調査した。

このイメージアップを一般の方が認知しているか、またどのような印象を受けるかを調査し、さらに建設工事をどのような視点で捉えているかを調査した。

それらを踏まえて全員を対象として今後のイメージアップの為には何が必要なのかを調査した。

以上の点を踏まえたアンケート調査項目を表-1に示す。

表-1 アンケート調査項目

調 査 項 目		対 象 者
Q1	建設工事に対するイメージについて	全 員
Q2	現在建設工事にて行われているイメージアップ実施内容について	建設業者
Q3	イメージアップの対象者について	一般の方
	建設工事にて行われているイメージアップへの認識について	
Q4	建設工事をどのような視点で捉えているかについて	全 員
Q5	建設工事のイメージアップのために今後必要なことについて	

Examples of Construction Works Image Improvement and the Study of Ideal Forms
By Masaru KOBAYASHI, Masahiro KAWAMURA, Shigeru KAMIYAMA, Masayuki ODAJIMA, Masashi SATO

(3) アンケート調査対象者

本アンケート調査は以下の者を対象に行った。

- ・「監督員」北海道開発局職員（札幌開発建設部札幌道路事務所、札幌新道建設事務所々員）24名
- ・「建設業者」札幌道路事務所及び札幌新道建設事務所における平成11年度発注の工事関係者150名
- ・「一般の方」上記各々の家族・友人148名

3. アンケート調査結果

各質問に対するアンケート調査結果を取りまとめたものを以下に示す。

Q1. 建設工事に対するイメージについて

一般の方・監督員・建設業者を対象とし、アンケートを行った結果を図-1に示す。

三者共に「悪い」が過半数を超えており、特に一般の方については4人に1人の割合で建設工事に対して悪いイメージを持っていることが解った。

「良い」「悪い」と回答した理由についてアンケートを行った結果を図-2、3に示す。

まず、「良い」に関しては、三者共に「社会に役立っている」「高い技術力が必要」が大部分を占めた。

次に「悪い」に関しては、一般の方の「マスコミ等により色々と言われている」が全体の53%と予想以上に高く、マスコミによる影響を一般の方は受けやすいと考えられる。

「仕事姿が格好悪い」「頭を使わず力仕事が多い」「危険な割に給料が安い」が三者共に多く『建設業＝3K（汚い、きつい、危険）』のイメージが根強く残っていると考えられる。



図-1 建設工事に対するイメージ

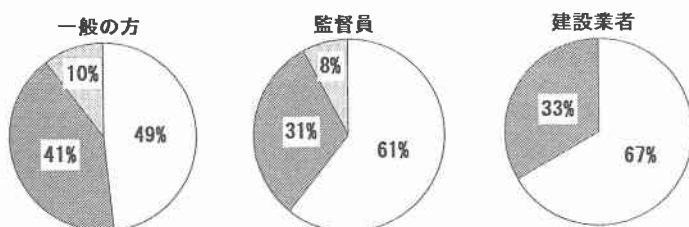


図-2 イメージが良い理由

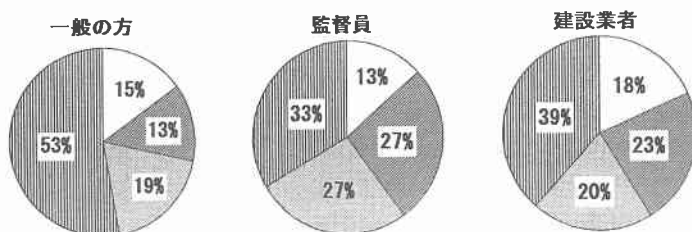


図-3 イメージが悪い理由

Q2. 現在建設工事にて行われているイメージアップ実施内容、イメージアップの対象者について

現在実施されているイメージアップの決定方法は、監督員から提示された「イメージアップ実施項目一覧表」の中から建設業者が工事内容に合わせて必要と思われる項目を選ぶのが一般的であるが、施工業者が必要と判断すればそれ以外の項目も実施することが認められている。

建設業者を対象にアンケート調査を行った所、大多数において仮設関係については「仮囲い」「模様フェンス」「デザイン看板」「フラワーポット」、安全施設に関しては「バリケード」「工事標識」「照明灯の安全設備」、営繕施設については「現場事務所」「現場休息所」といった項目が実施されていることが解った。

さらに、イメージアップの対象者について調査（複数回答可）を行った結果、「一般の方」という意見が全体の 72%、「建設工事に従事する自分達」という意見が全体の 40%、「監督員」は全体の 10%であることが解った。

これらのことから、建設業者はイメージアップというものを一般の方並びに建設工事に従事する自分達に対して行うものであるという認識を強く持っていると考えられる。

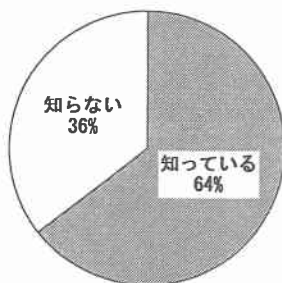
一般の方に対してのイメージアップは、外観的な事項（仮設関係におけるデザイン看板やフラワーポット、安全施設におけるバリケードや工事標識等）で対処し、従事している自分達（作業員も含む）に対してのイメージアップは、現場事務所や作業員の休息所といった周囲の作業環境を改善することで対処していると考えられる。

Q3. 建設工事にて行われているイメージアップへの認識について

一般の方を対象にアンケート調査を行った結果を、図－4 に示す。

イメージアップを建設工事にて行っているということは全体の 64% が知っており、イメージアップに対する一般の方の認識度は高いことが解った。

しかし、(1) で述べた通り、一般の方の建設工事に対するイメージそのものは悪く、建設業者が行っているイメージアップが現場を飾っているだけと認識されており、一般の方の建設工事に対するイメージをアップするということには関連しないため、現状のイメージアップそのものを見直すかどうかを検討することが肝要であると考えられる。



図－4 イメージにアップに対する認識度

Q4. 建設工事をどのような視点で捉えているかについて

一般の方を対象に、建設工事をどのような視点で捉えているかを、数年前に放送された「テクノパワ－（青函トンネルや明石海峡大橋等の現場最前線技術の紹介）」を例に出し、アンケート調査を行った結果、「スケールの大きな現場における技術やそれまでの設計」に視点を置いているという意見が 45% と多かったが、それ以外に「完成した構造物の維持管理」や「完成する事による経済効果」に視点を置いているという意見も共に全体の 40% と多く見受けられた。このことから、一般の方は工事前の設計や工事中の技術のみならず、工事完成後の効果や影響にも視点を置き、建設工事を見ていることが解った。

05. 建設工事のイメージアップのために今後必要なことについて

全員を対象にアンケートを行った結果、建設工事のイメージをアップするために必要な事柄として、以下の結果が得られた。多く見受けられた順に列記する。

- ・工事の目的や工期を分かりやすく説明した看板の設置（48%）
- ・工事完成後のメリット・経済効果等の一般の方への十分な説明（40%）
- ・住民とのコミュニケーション、定期的な現場見学会の実施、住民参加型の委員会の設置（37%）
- ・マスコミが一般の方へ与える影響を利用した各建設工事のPR（28%）
- ・建設工事の必要性・技術の素晴らしさを前面にアピール（23%）
- ・作業環境の改善、『建設工事＝3K』の払拭（20%）
- ・交通量の多い休祝日の作業の休止、完全週休二日制の確立（15%）
- ・他業種に比べて多い肉体労働の比率の削減、機械作業の比率の増加（12%）

以上のことから建設工事のイメージアップのためには、まず監督員・建設業者側から一般の方に向けて、建設工事の目的、工期、工事完成後の一般の方へのメリット、経済効果といった内容をもっとアピールし、積極的に一般の方とのコミュニケーションを図ることが必要であり、両者共に建設工事における情報の一般公開が、建設工事のイメージアップに繋がるものであると認識していることが解った。

4. まとめ

今回のアンケート調査の結果を取りまとめ、現在行われているデザイン看板やフラワーポット等の視覚的なイメージアップでは現場を飾っているだけと認識されており、一般の方が考えている建設工事に対するイメージをアップすることに繋がらないことが明らかになった。

よって、今回のアンケート調査により得られた一般の方の建設工事に対する意見は、今後のイメージアップのあり方を考察していく上で重要視するべき事項であると考えられる。

一般の方が建設工事に対して持っている悪いイメージ、すなわち他の職業に比べ、実際現場が抱えている「建設工事＝3K」や「肉体労働の割合が多い」といった内容をすぐに改善することでイメージアップを図ることは難しいことであるが、建設工事に従事する監督員・建設業者が一般の方へ、工事の目的、工期、完成後のメリット、経済効果といった一般の方の関心が高い情報を公開することにより、その工事自体の重要性を理解してもらうことで、時間を要するかもしれないが、建設工事の悪いイメージを改善すること十分に可能であると考えられる。

このような意識を持って各建設工事に従事する監督員・建設業者の一人一人が日常の工事管理に努めることにより、建設工事に取り組む姿勢が改善され、一般の方々に与える建設工事のイメージアップを図るとともに、建設工事全体の向上に繋がるよう、取り組んでいきたいと考える。

最後に、御忙しい中、本アンケート調査に御協力頂いた関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。